

2017年度 聖ヤコブ幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人日本聖公会三重学園
聖ヤコブ幼稚園

1. 園の教育目標

本園は、学校教育法及び教育基本法の基づきながらキリスト教(日本聖公会)の根本の教えである「愛」の精神をもって、一人一人をかけがえのない存在として大切にし、成長してゆく幼児に人生の早期から宗教的情操を与えることによって心身の発達を援助し、健全な人格の形成、愛情豊かな子どもに育つよう教育したいと思っています。愛された子どもは、人を愛することができます。また、子ども自身が持っている創造性や興味を、遊びを通して引き出し、自己表現や人とのかかわりを体験的に学びながら、人間としての基本的なことを、身につけてゆくものです。そのため本園では、「遊び」というものを大切な「学習の場」と考えています。「程よい抵抗」を与えながら「遊び」を通して成長してほしいと願っています。

教育理念

「キリスト教の愛の精神をもって、一人一人を大切にし、愛情豊かな子に育てる教育につとめてゆく」ことを教育理念とした保育を行っています。

- ・ 神様の愛を知る子ども
- ・ のびのび遊ぶ子ども
- ・ 思いやりのある子ども

日々のお祈りや礼拝堂での礼拝、また、花の日やクリスマスなどの行事を通して神さまと人々に感謝し、すべての人のために祈ります。こうした宗教的環境は、目に見えないものに対する感性を豊かにします。そして聖書のお話を見聞きし、キリスト教の愛の精神に根ざした人と人のつながりの大切さを学んでいきます。つまり、何よりも「自分が愛されている存在」ということを体感し、「愛され大切にされている事実から、人を愛し大切にしていゆくことを学ぶ」ことを目指しています。

2. 本年度の重点目標

幼児期に教えなければならないこと、この時期に経験しなければならないことを園全体で考え、教師一人ひとりが温かい雰囲気の中で園児一人ひとりに寄り添い保育を実践することのできるように努めます。その為に幼児の理解、教師の連携・協力体制の強化、教師としての質の向上、保育環境の充実に力を注ぎます。

3. 評価項目と取組内容

① 【教師としての質の向上】

園の教育方針・保育理念をよく理解し、子どもの性格や育ちを考慮した上で、幼児期にふさわしい指導計画を立て実践する。個々の幼児について教師同士でコミュニケーションをとりながら、協力・連携をしていく。研修・研究会には、積極的に参加し、自己課題が達成できるように努力する。

② 【心をつくる保育環境の充実】

子どもたちが楽しく登園し自己発揮できるように、子ども一人ひとりの心に寄り添い保育する。子どもたちが生き生き生活できるように、四季を感じたり、動植物の成長を楽しみにしたり、自然の不思議さや美しさを感じるようなわくわくする活動を行う。子どもがスムーズに就学できるように、小学校や市と連携し一人ひとりにあった指導の配慮、情報の共有化を図る。

③ 【教師間の協力・連携】

一人ひとりの子どもが安心して園生活を送り、その中で様々な経験を通して心身ともにより良い成長ができるよう、学年の枠を越えて教師が協力し合い連携を密にする。そして、状況に応じた適切な指導や援助が出来るように、園全体で情報を共有し共通理解のもと教育・保育ができるよう努める。また、市の子育て支援課や専門機関とも連携を取りながら、子どもの育ちを支えていけるようにする。

④ 【保護者との連携の充実】

園での子どもたちの様子や成長がわかるように、園からの情報発信に努める。子どもたちが成長できるような行事を教師間で話し合いながら、計画するとともに保護者も楽しく、積極的に園に関わって貰える行事や保育参観を企画・実践する。

4. 今後取り組む課題

- ・教師としての質の向上
- ・保育計画の研究と充実
- ・教職員間の協力と連携
- ・保護者との連携の充実

5. 学校評価の評価結果

今年度の学校関係者評価委員会

評価委員の方には、各学年の子ども達の様子や園全体での行事や活動・礼拝をご覧頂くと共に、取り組みの計画・実践内容等を報告や記録写真などで確認して頂いた。また、評価委員会は学期ごとに1回実施し、その都度、保育の様子や活動中の子どもたちの姿を見て頂きご意見やご感想を頂いた。

結 果	評 価 委 員 の 意 見
A	<ul style="list-style-type: none">・教師一人ひとりが自園の教育目標の主旨を理解すると共に、自己課題を持ち幼児教育に取り組んでいる。・きめ細やかな配慮や子ども第一の考えに基づいた保育・教育が徹底されていると感じる。・学年の枠を越え、子どもの情報共有が出来ている。園全体がまとまっている印象がある。・送り迎えがある園ならではの保護者とのコミュニケーションがとれていると思う。普段の様子やエピソードを交えながら、保護者の方に寄り添って話をしている様子がわかった。・より良い保育の実践を目指して、自己点検と評価を行い、努力がなされている。今後もキリスト教の愛の精神を大切にしながら、一人ひとりが向上心を持ち、充実した内容の教育・保育実践が行えるよう更なる取り組みを期待します。

6. 財務状況

公認会計士監査より、適正に運営されていると認められている。